

子供おもちゃ質問箱

第一集

平成 12 年 11 月初版
平成 14 年 02 月改

小学生から昔のおもちゃ、遊びについての
質問がありましたので、調べてみました。



arai toys

玩具卸

株式会社**新井商店**

350-0856 埼玉県川越市問屋町 3-1

電話 049(224) 5677 代

ファックス 049 (222) 8899

HP <http://www.saitama-j.or.jp/~araitoys>

目次

けん玉について

おはじきについて

紙風船について

紙風船用の紙の名前

紙風船の作り方

紙風船の形と種類

お手玉について

はねつきについて

はねつきの板（羽子板）の材料

羽根の材料

百人一首について

竹とんぼについて

竹とんぼはなぜ飛ぶのか

竹とんぼの種類

めんこについて

めんこ 面子の名前

めんこ 面子の材料

コマについて

コマの歴史

コマの種類

木コマに使う木の名前

コマ回しが上手になる方法

身近でコマ回しが体験できる場所

けん玉について

質問

技は全部でいくつぐらいありますか。

技の名前はいくつか教えてください。

一番むずかしいわざはなんですか

日本一大きいけん玉の大きさは、日本一小さいけん玉の大きさは

回答

「昔からのおもちゃ」は特定の人や特定の場所で作っているのではなく、多くの人々の手を経て長い年月をかけ自然に作られ、改良されてきたものですから、どれが正しくて、どれが本物か、ということではありません。たくさんのおもちゃの中で、みんなが使いやすいものとか、誰でも簡単に手に入るものとか、面白いものとか、びっくりするものとか、が選ばれて生き残ってきているわけです。だから私たちにもすべてのおもちゃについて、正確なことはよくわからないのですが、けん玉については多少なりとも、事情がわかっています。全国にけん玉愛好家が多かったのでしょう。10年以上前にみんなが共通した材料や規格で技の習得や競争や出来るようにと日本けん玉協会というのができました。ですからけん玉についてはここにお聞きするのがよいでしょう。

日本けん玉協会

〒188-0003

東京都西東京市北原2-2-7-111

電話(0424)67-1516



けん玉

おはじきについて

質問

ギザギザとツルツルはどうしてつけるのですか

おはじきを作る材料はなんですか

おはじきのいちばん大きいサイズはどれくらいですか

いちばん小さいサイズはどれくらいですか



回答

今のおばあちゃんが少女時代だったころの昔、おはじきはキシャゴといっていました。カタツムリ位の形と大きさと、色のきれいな巻貝です。おはじきという名前はこのキシャゴをはじいて遊んだことからきています。昔はガラスは高価でしたが、工場できれいできるようになり、キシャゴも貝からガラスになり、おはじきという名前になりました。ガラスは本来表面がツルツルなので、ギザギザはよくはじけるようにするためにつけたものです。ガラスのおはじきを作っているところはいま日本では東京に1つと大阪に1つの2ヶ所しかありません。その工場から、おはじきやビーダマの作り方の説明書をもらいましたので、**付録を見てください。**

紙風船について

質問

- しわしわの紙の正体を教えてください（紙の名前、材質）
- 紙風船の作り方は？（どうやって紙を球状に張り合わせるのか）
- 紙風船はいつごろから遊ばれていますか
- 球の形以外の形はありますか



回答

主な生産地は新潟県です。農村のおじいさんやおばあさんの副業でした。今は作る人が減ってしまって、中国からの輸入品が多くなっています。全国的に広まったのは大正時代からです。富山の薬売りが各家庭にお土産としておいていったからです。新潟県の出雲崎にある紙風船屋さんから紙風船の作り方を聞きましたので、要点をまとめてみました。

紙風船用の紙の名前

紙風船の紙はグラシン紙という紙です。非常に薄く、しかし機密性がよく、空気が抜けにくく、風船をついたとき音を出すなど、紙風船には適した紙です。この紙の使用はそんなに古くはなく、50年ほど前からです。それ以前には、薄いけれども質のあまりよくない紙の一枚一枚に大きな刷毛で色を塗っていましたが、グラシン紙の使用は画期的なものでした。

紙風船の作り方

紙の貼り方は3種類あります。

1：ずっと昔の方法は平らなところで風船の型紙を張り合わせていく方法ですが、平らな紙を立体的にしなければならないので、なかなか難しく、あまりたくさんできませんでした。

2：次に考えられた方法は、細い鉄を風船の形に合わせて、数字の2の字のような形にして、その細い曲線のところで、のりづけをしていくやりかたです。この金属の型は風船の大きさにあわせていろいろ用意します。このやり方はとても熟練を必要とするのですが、慣れてしまえば、1の方法よりずっと仕事ははかどり、たくさんできます。しかし、上手に貼り合わせるようになるには長い経験が必要ですので、そういう紙風船つくりの名人はだんだん少なくなっています。

3：そこで今では、風船を作る機械をとりいれて、安く多く紙風船を作れるようにしています。

紙風船の形と種類

紙風船の形は昔は四角いのもありましたが、今の日本では丸型が中心です。そのほか、ヒレや足、目をつけた金魚、海のたこ、猫、てんとう虫、魚のふぐ、野菜や果物、ソフトボール、ラグビーボールなどもあります。手作り紙風船の作り方を描きましたので、**付録を見てください。**

お手玉について

質問

中に入れるものはどんなものがありますか
地方や県によるちがいはありますか



回答

お手玉の中に入れるのは小豆や大豆です。農家の畑で採れたものを自前で作りました。袋の生地デザインは多少違うかもしれませんが、地方の違いはそれほどないと思います。お手玉のものは、昔外国のお客さんを歓待するために王様や貴族の前で披露した曲芸です。今ではサーカスなどでみ

られる曲芸ですが、昔は誰でも見られたわけではありません。その芸が長い年月を経て庶民に広まってきました。冬にコタツに入ってみかんをお手玉のようにして遊んだ経験もあるでしょう。そのみかんの代わりがお手玉です。詳しくは「お手玉、日本のお手玉の会監修、文溪堂」を見てください

はねつきについて

質問

はねつきの板はどんな木からできていますか。

はねの材料は何ですか、昔はどんなものをつかっていましたか。

細切り3本羽根



回答

はねつきの板（羽子板）の材料

羽子板には飾り用と羽根つき遊び用の2種類あります。江戸時代からありました。飾り用は押し絵羽子板といって、綿を詰めた布を張り合わせて立体的に歌舞伎役者などの絵を作り、羽子板の片面に張り合わせます。お正月や女の子のお祭りなどに飾る大きな羽子板で、材料は桐の木からつくります。羽根つき用羽子板は片手で握れる位の大きさの小さなもので、杉や朴の木の板に絵の具で絵が書いてあります。

5枚羽根



羽根の材料

羽根は水鳥や鶏の羽根を使います。鳥の羽根には2種類あります。翼となる羽根（フェザー）と胸のあたりの羽毛（ダウン）です。羽毛（ダウン）はふわふわ柔らかくて羽根布団や冬のジャケットに使われています。羽子板の羽根に使うのはフェザーの方で、硬くて背骨のような芯があり、葉脈がある葉っぱに似ています。この羽根を一枚一枚はさみで切って形を整え、染料で綺麗な色に染め、黒い玉に3本または5本差し込みます。その玉はムクロジという植物の実です。バトミントンの羽根も元は水鳥の羽を使っていましたが、現在はプラスチック製が多いようです。昔の農家では庭に鶏を飼っていたので、羽根は用意に手に入りましたが、今はプロイラーが主体で、また鴨などの水鳥もほとんどいなくなりましたので、よい羽根がなかなか手に入らず羽子板の羽根も簡単には作れなくなりました。

百人一首について

質問

百人一首の意味を教えてください。
いつごろから遊ばれるようになったのですか



回答

お正月の遊びで百人一首というかるたとり遊びがあります。昔はどこの家でも遊んだようですが、最近はあまり遊んでいないようです。でも全日本かるた協会というのがあって、日本全国規模でカルタとりの競技大会を行っています。ときどきニュースや新聞で報道されていますから、知っている人もあるでしょうが運動会やスポーツ大会のように体を使った激しい競技です。しかしこれも昔からあったのではなく長い年月をへて今のよう形になりました。百人一首のほかに、「いろはカルタ」やテレビアニメのカルタも同じように「カルタ」といいますが、なぜでしょう。「カルタ」とは紙切れ、紙のカードという意味でもとはポルトガルの言葉です。かるた遊びは読み札を読んで同じ種類のカードを見つけるという遊びです。この遊びのもとには、平安時代の貴族のお姫様たちが遊んでいた貝合わせという遊びです。ハマグリのような2枚貝をバラバラにしてそれを合わせるという遊びです。貝は2つと同じものがないので上手に選ばないとぴったり合わないのです。しかもその貝殻は自然のままではなく、金銀やきれいな絵の貝で、絵が描いてあります。戦国時代の末にポルトガル人が日本にやってきて、その時紙で出来たカード遊びも一緒に伝わりました。今のトランプのもとのような遊びです。英語のカードとかドイツ語のカルテ（お医者さんが使う病気の診断を記録した紙）という言葉からもわかるようにある手頃大きさに切った紙のことです。そこで貝合わせで使っていた貝の代わりに紙のカードを使った遊びでき、これをカルタということになりました。相手が紙ですから貝以上に表面にいろいろな絵や文字が簡単に書けるようになったのです。百人一首の一首とは一つの歌という意味です。歌とは歌謡曲の歌ではなく、5,7,5,7,7という言葉の並びで作る31文字の詩のことです。この詩を和歌（ワカ）とって古くから日本にあります。感動するような歌を上手に作ると、「立派な人だ」と尊敬されますので、大勢の人が勉強して歌を作りました。特に天皇や貴族の人たちは上手な歌が作れることが絶対に必要でした。歌を専門に教える先生がいて、優秀な歌を集めて文集をつ

くります。万葉集とか古今和歌集のような有名な和歌集があります。平安時代の末から鎌倉時代の人で藤原定家という有名な和歌の先生がいて、その人が都（京都）の西の嵯峨野の小倉山にある別荘に住んでいて、歌のうまい100人を選び、それぞれの人が読んだ歌のなかでよい歌を1つずつ選んで、そこの別荘の屏風に書き残しました。その100の歌が江戸時代になって、紙のカルタに書かれて、新しい貝合わせになったのです。100人の歌が1つずつ選ばれていればどれでも百人一首ですが、藤原定家が選んだ百人一首がいちばん有名なので、普通、百人一首といえはこの百人一首をよぶのですが、正確には小倉(山)百人一首といいます。この伝統が現代にまで伝わっています。いろはかるたや、キャラクターカルタは百人一首になって後にできたものです。由緒正しい遊びですので記録がいろいろ残っています。また日本の昔の古典文学を勉強する場合の入門書にぴったりですので、いまから遊びながら、歌を覚えて勉強しておくことで役に立ちます。参考書も豊富ですが、たとえば「学研版 絵で読む古典シリーズ 百人一首」にはカラー写真版でカルタの歴史やカルタとりのやり方など詳しくのっています。

竹とんぼについて

質問

どんな大きさの竹とんぼがありますか。大きさは決まっているのですか他の形の竹とんぼがありますか。



回答

竹とんぼはなぜ飛ぶのか

竹とんぼは自然の法則を利用したおもちゃです。たとえば踏み切りや駅のホームに立っていると、勢いよく走ってきた電車に吸い込まれてしまいそうになった経験をしたことがあるかと思いますが、竹とんぼが飛ぶのも、翼をつけたプロペラ飛行機が飛ぶのも、ヘリコプターが飛ぶのも、この前のシドニーオリンピックで有名になったオーストラリアのアボリジニが使うブーメランが飛ぶのも、三角形の帆を張った帆船やヨットが風に向かって走れるのも、弓なりになったゲイラカイトや角凧、奴凧が空高く揚がるのも同じ理由です。すべてに共通する秘密があります。それはすべて

の形の断面積をみると、片方の線が外に膨らんで、ちょうどかまぼこのような形をしていることです。かまぼこ型した物体は流れる空気の中に入ると、膨らんでいる方に引っ張られるという自然の法則があります。実際には、どの位の重さのものが、どのようなカーブで、どのくらい勢いよく回転したらどの位の速さで動くかは、いろいろ実験してみる必要があります。

竹とんぼの種類

竹とんぼが竹で出来ているのは、軽くて丈夫で、加工がしやすく、昔はどこでも比較的簡単に手に入れることが出来たからでしょう。今ではプラスチックのもあります。竹とんぼの大きさも、もしもっと勢いよく回せるようにできるな、普通に売っている大きさのものより大きく出来るでしょう。ヘリコプターや飛行機など、あれほど重いものが空中に浮き上がることが出来るのは、自分のもっている重さ以上に燃料の爆発の推進力が強くて、勢いよくプロペラを回せるからです。

めんこについて

質問

めんこはいつごろから遊ばれるようになったのですか

めんこの材料はなんですか

回答

めんこ 面子の名前

面子はカルタから生まれました。江戸時代のカルタは和紙といって高級な紙で出来ていましたので、簡単には手に入りませんでした。明治になって外国から安くて大量に作れる紙の製造技術が輸入されましたので、紙の使える領域が広がり、子供のおもちゃにも利用されるようになりました。その後、大正、昭和となり、紙の表に歌舞伎の役者の顔とか、運動選手の顔とか、マンガの主人公の顔が印刷されるようになり、カルタとり以外に、たとえば地面にはたきつけるような新しい遊び方が考えられました。面子とはお面という言葉からもわかるように、人の顔のことです。人の顔が描かれているカードだから面子です。その後、人の顔以外のものがかかれて



角面子



丸面子

いても、地面にはたきつける遊びに使われるカードを面子という習慣になりました。

めんこ 面子の材料

本当は紙に描かれたカードが面子だったのですが、形が似ているもの、同じ使い方をするものを面子ということになり、紙以外に銅や錫という金属で作られたものも面子といわれています。粘土のような泥でできた泥面子というのもありました。今は面子遊びは人気がなく、ほとんど作られていません。その代わりに、写真印刷がきれいなマンガの主人公のカードや、アイドルのプロマイドがたくさん作られています。

コマについて

質問

- コマはいつごろから遊ばれていますか。
- コマの木の種類はどんなものですか
- 技はどんなものがありますか
- コマはどこでつくられていますか。



塗りコマ



空中コマ

回答

コマの歴史

コマは自然の法則を利用したおもちゃです。ぐるぐる回転している物体は外から力を加えないかぎり、回っている方向を変えないという自然の法則があります。たとえば止まっている自転車は倒れますが、車輪が回って動いている間は倒れない、あるいは倒れにくいのです。ここでクイズ。地球上で一番大きいコマは何ですか？。答えは地球そのものです。その証拠にぐるぐる回っていてもいつも北極星が北をさしています。(厳密にいうと26000年の周期で回転の軸がづれています。これはミソスリ運動、専門用語は歳差運動といいまして、これもコマの運動の特徴です)

古代ギリシャの壺にコマ遊びをしている絵があります。そのコマは現在私達になじみのある上下に心棒が突き出ているのとは違って、鞭むちコマとかたたきコマといって、短い丸太の先端を尖らせた、ちょうど短い鉛筆の先のようなコマで、鞭を使って回転させています。紀元前1500年から2000年

のエジプトが発祥地ではないかと言われています。

コマは英語でトップ (top) といいます。トップとはとんがった先頭という意味ですから、心棒を立てて、倒れないで回っているコマの姿からきているのでしょう。

それでは日本語ではなぜコマというのでしょうか。日本では古く「つむぐり」と呼ぶ木の実のコマがありました。平安時代に高麗 (コウライとかコマと呼ぶ朝鮮半島の北西部、現在の北朝鮮) からコマがやってきて貴族の間で珍重されました。これをコマのつむぐりの意味で「こまつぶり」といったのがコマの語源だといわれています。平安時代の貴族の生活を記した「大鏡」という歴史の本に載っていますが、そのときのコマも今のような地面で回すコマではなく、空中で回すコマではないかという説もあります。カイツブリという鳥がいますが、そのチョンチョン飛び回る鳥の動きがコマの動きに似ていたのでコマのツムリといったのではないかという考えです。中国の雑技団が演技している空中コマやフランスのディアボロとういうコマを想像してください。

一般庶民に普及するのは江戸時代からです。今の形のコマの原型が今でも九州地方で遊ばれています。それは丸い円盤や卵型の胴体に下から鉄の芯を刺しているものです。胴体の上下に心棒が通っているコマは17世紀に考案された博多コマが最初です。この形はコマが安定して回るので曲芸が出来るようになりました。これが江戸にも伝わりました。江戸は武士の町でもあります。一般庶民のすむ町人の町でもありました。お祭などの縁日には市がたちます。露天商は祭に集まってきた人たちに物を買わせようとします。コマまわしの曲芸をして、日本で最初にそれらの人たちの関心を惹きつけようとしたのは、江戸時代延宝(1673 ~ 1681)天和(1681 ~ 1684)の松井源水という人です。コマを売るのではなく、人集めの方法としてコマの曲芸をしました。大道芸のはしりです。これ以後コマは庶民の遊びとして全国に普及していきます。加工がしやすい木が豊富という日本の事情もあって多様な独楽が生まれました。幕末時の初代駐日英国公使、オールコックの日本滞在記「大君の都」^{タイクーン}のなかで「せっかちに言えば、日本人は独楽回しばかりだということになる。他のどの国民よりもこま回しに大変すぐれている」と述べています。当時西洋人にとって日本といえば独楽という連想図式が成り立っていたようです。明治時代になって以後も、西洋から新しいタイプのコマの影響も受け、さらにさまざまな独楽が生まれ、そして現在のコマブームへと、独楽遊びの伝統は脈々と受け継がれています。

コマの種類

現在の日本のコマにもいろいろな種類があります。(付録を参照)

東北の木工コマ：

東北の家内産業の特産品といえはこけしですが、木コマもその中のひとつです。



東北の民芸コマ

上州(群馬)の紅コマ：

東北と同じような場合が、関東では群馬県です。



上州紅コマ

東京の江戸コマ：

江戸時代の曲芸コマの伝統をついでいます。木の心棒は長いのですが、コマの胴は大きな円盤形で、重心は下にあるようなつくりです。注文生産で直径2～30cmからで4～5万円します。木を乾燥しなければならないので注文をうけてからの納期は2,3年かかります。



けしコマ

関東のケシコマ：

コマの胴は木製で鉄砲の弾のような縦長で周りに鉄のタガがはまっています。心棒も鉄で、相手のコマにぶっつける喧嘩コマです。

川口のベーゴマ：

ベーゴマのはじまりは、関西方面発祥のバイ貝のコマで、後に鋳物でできたベーゴマに発展。今日本では川口市に1軒だけ作っているところがあります。心棒がなく紐を胴に巻きつけてまわします。関東から関西の間でしか遊ばれていませんので、それ以外の地域で生まれ育った人はベーゴマを見たことがないので、心棒のないベーゴマをみてもこれがコマだとは信じられません。



ベーゴマ

神奈川の^{おおやま}大山コマ：

神奈川県伊勢原市に有名な大山神社がありますが、その門前で売っている木のコマで胴も心棒も独特の曲線の形をしていて、重厚な感じがします。飾っておくだけでも立派な姿のコマです。



地球コマ

名古屋の地球コマ：

タイガー商会というところが開発した日本が誇る世界に有名なコマです。昔人工衛星や、無線技術がなかったころの船や飛行機では、進行方向を確

かめるために、ジャイロコンパスというのを使っていました。回っているコマはその回転している方向を変えないというコマの性質を利用した機械です。地球コマはこのジャイロをおもちゃ用に改良したものといえます。

関西のブリキコマ：

ブリキコマ



模様を印刷したブリキ製（実際には胴の土台はプラスチックですが）のコマで、大きさ、重さや値段も手頃なので、広く全国の子供に普及しています。コマ回しの入門用ですが、上手な人はかなり高度な技もできます。

鉄輪皿コマ：

皿コマ



芯は鉄で木の胴には鉄のタガがはまっていますが、関東のケシゴマと違って胴は円盤のように平たくなっています。大きいので遠心力が付き、長時間回っています。

四国の鉄輪こま：

鉄輪コマ



鉄芯、胴の周りに鉄のタガがはまっているのは、ケシゴマや鉄輪皿ゴマと同じですが、胴の形がこの中間ぐらいの厚さです。手に馴染む大きさで、遠心力も大きいので、曲芸コマにむいています。

九州のコマいろいろ：



九州肥後こま

付録に詳しく載せてありますのでそちらを見てください。

逆立ちコマ：真ん丸い胴に心棒がさしてあり、指でつまんで回す捻りゴマですが、回っているうちに上下が逆転して逆立ちし、回転方向も一見逆転してしまつたように見える、なんとも不思議なこまです。20 世始めの世界の大物理学者であったニールス・ボーアが夢中になっていたというエピソードがあり、デンマークのコマとも言われています。

逆立ちコマ



木ゴマに使う木の名前

木製のコマの原木にもいろいろあって、里山に生えている桜、ミズキ、エゴ、ブナなどの雑木を切り倒し、1 年以上よく乾燥させてから轆轤などを回してつくります。一部九州や伊豆半島では椿の木も使用しています。

コマ回しが上手になる方法

ビックリするかも知れませんが、2、3年前に流行した紐のついたヨーヨーもコマの仲間です。コマは心棒が地面に対してまっすぐ上に立って回っていますが、コマを二つ合わせて一つの心棒にし、その心棒に紐をかけ、心棒が地面に対して横になって回るようにしたのがヨーヨーです。ヨーヨーは今から7～80年前にアメリカでコマから改良されたものです。

コマまわしが上手にできる秘訣は、手を放れた時のコマの姿勢が、地面についたとき地面に対して心棒がまっすぐ上に立つように、手を放すことです。何回も練習して投げるときの姿勢とか腕の方向などを体で覚えることが大事です。ヨーヨーの場合はヨーヨーの心棒がいつでも地面に対して横(水平)になるような投げ方を練習することです。そうすると長い時間回せることができます。長い時間回せるようになると更に難しい技に挑戦できるようになります。



「独楽(こま)」文溪堂2002年
この本には日本の独楽のコレクションと回し方の写真付説明が載っています。

身近でコマ回しが体験できる場所

コマの語源は高麗(コマ)からきていますが、埼玉県西部の日高、飯能地域は古く奈良時代には武蔵の国の高麗郡(コマゲン)と呼ばれ、コマにゆかりの場所です。これを記念してコマの博物館があります。世界中のコマが集められていますし、コマ回しの指導もしてくれます。毎年コマ回しの大会もあり、平成11年は11月、12年は12月におこなわれました。コマ回しの名人による曲芸も披露してくれます。技は200種類以上あるそうです。場所もそんなに遠くありませんのでいってみると、いろいろ勉強になると思います。

参考書

昔からのおもちゃ、遊びについての研究は、対象が古今東西なかなか奥が深くて一筋縄ではいきませんが、質問内容に関連して参考になる書籍を若干挙げておきます。

おもちゃ、遊びの種類と分類について

1 「遊びと人間」 カイヨウ著 講談社文庫

ホイジンガの「ホモルーデンス」につぐ世界的に有名な遊びの文化論。ホイジンガの著作が一般論であるのに対しこの本はより具体的で博物的である。

自然、物理の法則とおもちゃについて

2 「おもちゃセミナー」、戸田盛和 東京書籍

物理学者の立場からおもちゃの物理、工学的側面を図解入りで解説する。
駄菓子屋のおもちゃについて

3 「駄菓子大全」 とんぼの本 新潮社

現在駄菓子屋や縁日で売っているお菓子やおもちゃが写真入で載っています。

おもちゃと遊びの歴史について

4 「おもちゃ博物館 全24巻」 京都書院

明治以後に製作された多種多様なおもちゃのコレクション写真集。「テレビ何でも鑑定団」を想っていただければよい。

5 「こども遊び大全」 新宿書房

昭和20年30年代の子供の遊び世界のイラストと解説による再現。遊び方が具体的に解説してあるので、今でも十分参考になる。

6 「駄菓子屋図鑑」 飛鳥新社

昭和20年代の筆者子供時代のイラストによる回顧録

7 「まぼろし小学校」 小学館

昭和40年代の子供世界の思い出追想

8 「別冊宝島360 レトロおもちゃ大図鑑」 宝島社

時代を代表する美術、芸術、文学、学芸などのA級文化に対し、おもちゃや遊びをサブカルチャーのB級文化として捉えた写真による変遷史

9 「近代庶民生活誌 見世物、縁日」 三一書房

商業の原型である、行商、香具師とおもちゃの関わりの歴史研究書

10 「近代庶民生活誌 下町」 三一書房

明治以降の下町とおもちゃ、子供の遊びの歴史研究書

11 「珍しいコマの作り方」 日本放送出版協会

コマを自分で作り回すための手引書。

12 「独楽(こま)」 文溪堂 2002年

日本の独楽のコレクションと回し方の説明がはいった写真集です。

13 「新井商店取り扱い縁日お祭り用商品一覧表2003年版」

けん玉、おはじき、紙風船、お手玉、はねつき、カルタ、竹とんぼ、こまなど、今でもお祭りや駄菓子屋で売っている商品の写真がのっています。